

瀬尾 芳輝

獨協医科大学 生理学（生体制御）教室

国立大学が独立法人化された2004年4月、獨協医科大学に移りました。国立の生理学研究所で11年間、公立の京都府立医科大学で8年間過ごし、今度は私学で、充実した日々を送っています。私立学校の良さは責任関係が明白で、意志決定が速く、フットワークの良いところです。新任教員の常として1年生の担任を任されました。と言っても、私が講義で1年生と接するのは3学期になってからです。これでは学生と意思疎通ができず職務も果たせないのではと困ってしまいました。ふと、鳥取大学で行っている新入生朝食会を思い出し、学生部長に相談したところ、それは良いと、3月も半ば過ぎだというのに、あっと言う間に1学期間、週一回の朝食会を行うことになってしまいました。（難しかったのは、学食との価格交渉（一食350円）と事務局長への予算申請書だったでしょうか。）おかげで、1学年学生達と良好な関係を築けたものと思っています。これも、学生や事務との異種格闘技の王者であった巨 弘教授に稽古をつけて頂いた成果と感謝しています。

獨協医科大学では、学部のカリキュラムは教養・基礎・臨床がくさび形に配列され、統合型臓器別の講義にPBLと少人数ゼミが加わった混合型の、良く言えば「最先端」の、悪く言えば「ごちゃ混ぜ」のカリキュラムとなっています。1, 2, 4, 6学年の学生教育にタッチしています。短期間に多くの学年の学生と接することができ、関西とはまた異なる学生気質をつかむことができました。また統合型講義は講座間の風通しがよく、教育熱心な先生方から多くの教育技法を学ぶことができました。さらに、一通り臨床の講義が済んで

いる4年生への病態生理の講義に予想以上の手応えを得たことは大きな成果でした。年間約60コマと京都府立医大の数倍のコマ数に対応できたのは、森本武利教授・伊藤俊之助教授をはじめ吉村寿人先生の流れをくむ諸先生方から教育について厳しいご指導を頂いた結果と感謝しています。毎回の講義毎に学生からフィードバックを受け、日々、反省と工夫をしているところです。悲惨な生理学教育が行われている実態なども耳にします。第82回生理学会では教育シンポジウム「魅力あるモデル講義と生理学教育」が行われ、私も拝聴致しました。生理学会として学部教育に積極的にコミットし生理学教育の質の向上を図って頂けるものと期待しています。

研究面では、分子レベルでの生理機構の解明と個体生理機能への統合を目指し、NMR法を中心に「あるがままの状態」での生理機能計測方法の開発・応用を図っていく所存です。8月22日から5日間、8th International Conference on Magnetic Resonance Microscopy (ICMRM) を獨協医科大学で開催することができました。AMPERE Society, Division of Spatially Resolved Microscopyの年会で、医学生物学を始め理学・工学・農学・地学など広い領域の研究者が集い、生体の三次元的構造や代謝活動の画像化のみならず、流れや拡散、化学反応などの物理的・化学的情報の非侵襲的計測についての研究成果を集約する場です。今回はドイツ・アメリカなど国外から75名、国内から約60名が参加し、活発な討論を行うことができました。最後には台風11号まで乱入しましたが、獨協医科大学の教室員や事務ス

スタッフの献身的な努力により、無事に会を全うすることができました。吉崎和男先生（現徳島大学教授）と共に、高分解能in vivo H-1 NMRを発表したのは26年前です。その成果が、アルツハイマー病など変性疾患の臨床に生かされるまで十数年を必要としました。私の国際的な評価もこれらある面では早すぎた研究成果に寄るものです。昨今の、短期間での実利的成果を強調する評価基準ではどのように評価されるのでしょうか？一抹の不安を覚えるのは私だけではないと思います。

教員5名、技師2名の「生理学商店」の経営を承って1年半、さらによりよい「商品」を提供できるように頑張る所存です。「あるがままの状態」

での生理機能計測に興味のある方は、獨協医大・生理学（生体制御）教室のホームページ（<http://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/kousei/index.html>）を覗いて下さい。興味を持たれた方は、お気軽にメール（yseo@dokkyomed.ac.jp）下さい。

略歴

1985年 京都府立医科大学大学院修了
1985年 生理学研究所・分子生理研究系・助手
1996年 京都府立医科大学・第一生理学・講師
2004年 獨協医科大学・生理学（生体制御）・教授